

### (5) UPZ住民屋内退避訓練

- ・緊急時防護措置を準備する区域（UPZ）となる本米崎地区を除く市内全域の住民を対象として、屋内退避指示を合図に、合わせて屋内退避の手順について確認を行った。
- ・訓練実施にあたっては、「屋内退避対応マニュアル」を事前に配布し、屋内退避の重要性とポイントについて周知を行った。

#### ■成果・良好事例■

- 全面緊急事態におけるUPZの基本的な防護措置である屋内退避について、昨年より住民に対し理解促進を図ることができた。〈アンケート〉
- 屋内退避の実施手順について、確認し実践をすることで屋内退避手順の一定程度の習熟を図ることができた。〈アンケート〉
- 課題としていた「段階的避難の更なる住民理解の促進」について、昨年引き続き、訓練実施前に避難行動を記したマニュアルを配布するなど、広報活動を行い更なる理解促進を図ることができた。〈アンケート〉

#### ■課題・改善すべき点及び今後の対応■

課題・改善すべき点	今後の対応
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 広域避難に関する理解が5割程度であることから、原子力災害に関する情報の更なる周知が必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 多くの方が訓練をきっかけに確認をすることから、継続して訓練を実施するとともに、参加を促す事前周知について、広報・周知方法を検討していく。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 訓練参加者をさらに増やし、関心を持ってもらう必要がある。</li></ul>	
<ul style="list-style-type: none"><li>○ UPZについては、屋内退避までの訓練にとどまっていることから、避難や一時移転についても、情報提供及び訓練を実施していく必要がある。〈外部〉</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市内の大部分がUPZになることから、災害時の対応についての周知を充実させるとともに、避難を含めた訓練の実施を検討する。</li></ul>

### (6) 要配慮者施設の屋内退避訓練

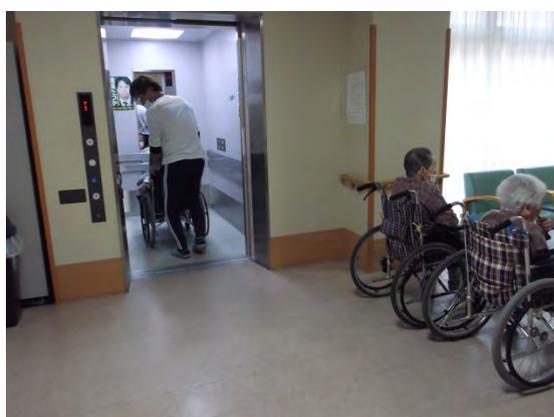
- ・UPZに立地する放射線防護対策を施した福祉施設（特別養護老人ホームいくり苑那珂）において、市からの災害情報により入居者の避難訓練（陽圧化エリアへの移動）を行った。
- ・陽圧化装置の稼働訓練を実施し、施設職員による建屋内の陽圧化確保について手順等の確認を行った。

■成果・良好事例■

- 屋内退避時における入居者の避難誘導等、施設職員の対応について、検証することができた。
- 陽圧化装置の稼働を実際に行うことで、施設内の確認箇所や機械操作について施設職員の対応力向上が図れた。
- 民間の福祉施設と合同で訓練を実施することで、災害時における今後の連携などについて課題抽出・検証することができた。

■課題・改善すべき点及び今後の対応■

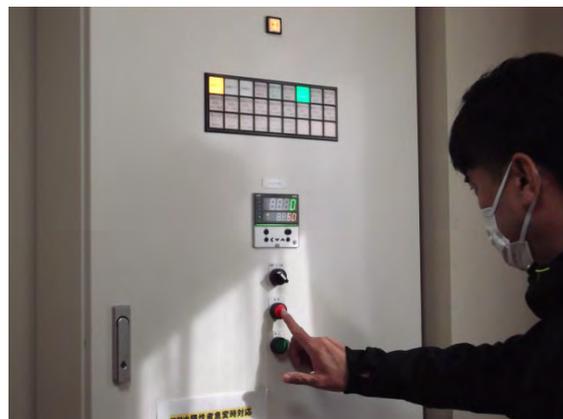
課題・改善すべき点	今後の対応
○ 今回は、車いす利用の入居者の移動を行った。今後は寝たきりの入居者の移動についても訓練を行う必要がある。	○ 災害時には、限られた職員数での対応が求められることから、継続した訓練の実施を検討する。
○ 操作マニュアルが、手元に準備できないなど、陽圧化装置の操作に時間を要した。	○ 交代勤務の職場であることから、職員全体が機器操作に対応できるように、マニュアルの複数配置や操作機会を確保していく。



<施設職員による入居者の避難活動>



<陽圧化エリアの設定>



<陽圧化装置の操作訓練>

## ◆今後に向けた検討項目◆

### ○ 災害時の対応力向上

- ・昨年から2回の訓練を実施し、災害対策本部訓練においては、事態の進展に応じた防護措置の確認を実施した。今後はシナリオを一部非公開とするブラインド型訓練などを取り入れ、状況に合わせた防護措置を各班が検討するなど対応力向上を図る。
- ・システム操作や機材の取扱いなどの操作研修の機会を設けるとともに、要素訓練などを取り入れ、各種要員の確保を図る。

### ○ EAL、OIL※に基づく防護措置に係る訓練

- ・本訓練では、PAZの広域避難を実際の避難先まで実施した。今後は、市内のほとんどがUPZであることから、屋内退避の重要性や効果を周知するとともに、放射性物質放出後の避難や一時移転についても訓練を実施する。
- ・避難退域時検査の訓練を実施し、関係機関との連携強化を図る。
- ・避難行動要支援者の避難について、避難支援等関係者と連携して、避難の実効性の向上を図る。

### ○ 避難先自治体との連携強化

- ・本訓練では、実際の避難先まで住民移動を実施したことで、連絡体制や避難所運営・避難者受入れ等さまざまな検証をすることができた。今後は、避難先自治体と更なる調整を図り、広域避難の実効性の向上を図る。

### ○ 住民周知の強化

- ・住民アンケート結果などから、広域避難する際の避難先などについて訓練時だけでなく、平時からの広報などを充実させ住民理解を図る。
- ・災害時の情報発信については、引き続き住民に対してわかりやすい表現で届くよう広報文などについて検討していく。

### ○ 感染症対策を講じた防護措置に係る訓練

- ・引き続き感染症対策の継続が必要であることから、一時集合所や避難所での対応能力の向上を図る。

※EAL (Emergency Action Level) : 緊急時活動レベル。緊急事態区分 (警戒事態・施設敷地緊急事態・全面緊急事態) に該当する状況であるか否かを原子力事業者が判断するための基準。

※OIL (Operational Intervention Level) : 運用上の介入レベル。放射性物質放出後の防護措置の実施を判断するための基準。

## 4 アンケート結果

### PAZ住民避難訓練

#### 【概要】

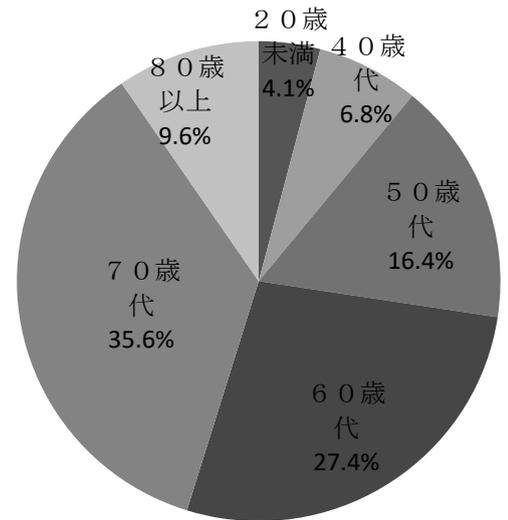
PAZ住民避難訓練の参加住民を対象にアンケートを実施し、73人から回答を得た。

※参加者74人中73人回答(1人は未回答)

※集計表下部の★はR3訓練アンケートの集計値を記載

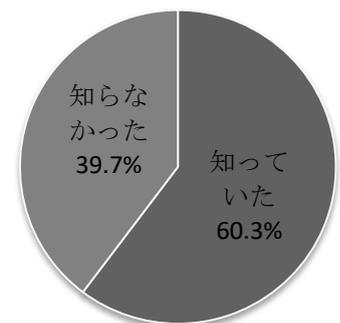
質問1 年齢(令和4年4月1日現在)を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
20歳未満	3	4.1%
20歳代	0	0.0%
30歳代	0	0.0%
40歳代	5	6.8%
50歳代	12	16.4%
60歳代	20	27.4%
70歳代	26	35.6%
80歳以上	7	9.6%
合計	73	100.0%



質問2 お住まいの地域が、PAZまたはUPZのどちらの区分に該当するのか知っていましたか。

選択肢	回答数	構成比
知っていた	44	60.3%
知らなかった	29	39.7%
合計	73	100.0%

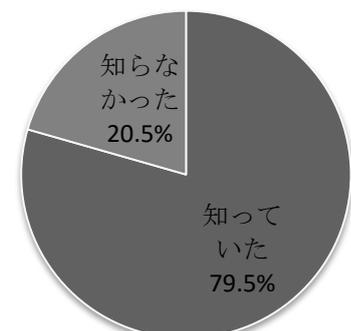


★R3年「知っていた」 62.2%

質問3 原子力災害が発生して避難をする場合、次のことを知っていましたか。

① バスなどで避難する場合の一時集合所

選択肢	回答数	構成比
知っていた	58	79.5%
知らなかった	15	20.5%
合計	73	100.0%



★R3年「知っていた」 59.5%